

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 1 部門第 1 区分
【発行日】平成 17 年 12 月 2 日 (2005.12.2)

【公開番号】特開 2000-125731(P2000-125731A)
【公開日】平成 12 年 5 月 9 日 (2000.5.9)
【出願番号】特願 平 10-302252
【国際特許分類第 7 版】

A 0 1 K 93/00

【F I】

A 0 1 K 93/00 Z

A 0 1 K 93/00 E

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 10 月 14 日 (2005.10.14)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 少なくとも 2 つのうちの針先側に装着される釣り用浮きであって、浮き本体が接続部材を介して釣系に対して姿勢変更自在に連結されていることを特徴とする釣り用浮き。

【請求項 2】 前記浮き本体に形成された穴に第 1 のゴム管が固定され、前記接続部材は前記浮き本体側に突起部材を有し、

前記突起部材が前記第 1 のゴム管に挿入されることにより、前記接続部材と前記浮き本体が着脱可能に連結されていることを特徴とする請求項 1 に記載の釣り用浮き。

【請求項 3】 前記接続部材は、前記釣系が挿通された第 2 のゴム管と、前記第 2 のゴム管の内部に挿入されたキャップとを更に備え、

前記突起部材と前記第 2 のゴム管とが紐によって連結されていることを特徴とする請求項 2 に記載の釣り用浮き。

【請求項 4】 少なくとも 2 つのうちの針先側に装着される釣り用浮きであって、浮き本体に輪状の紐が固定されており、釣系に取り付けられた棒状部材に前記紐が挿通することにより、前記浮き本体と前記釣系が連結されていることを特徴とする釣り用浮き。

【請求項 5】 前記釣系が挿通されたゴム管を更に備え、

前記棒状部材は、前記ゴム管の内部に挿入されることにより前記釣系に固定されていることを特徴とする請求項 4 に記載の釣り用浮き。

【請求項 6】 前記ゴム管は前記棒状部材の長手方向の前後位置にそれぞれ 1 つ装着され、

前記輪状の紐が、前記棒状部材の長手方向の前後位置における前記ゴム管の間に位置していることを特徴とする請求項 5 に記載の釣り用浮き。

【請求項 7】 前記ゴム管の外径が、前記輪状の紐の内径よりも大きいことを特徴とする請求項 6 に記載の釣り用浮き。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 0 9 】

【課題を解決するための手段】

本発明の釣り用浮きは、少なくとも２つのうちの針先側に装着される釣り用浮きであって、浮き本体が接続部材を介して釣糸に対して姿勢変更自在に連結されていることを特徴とする。

【手続補正３】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１１

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正４】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１３

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正５】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１４

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正６】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１５

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正７】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１６

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 1 6 】

本発明の釣り用浮きは、少なくとも２つのうちの針先側に装着される釣り用浮きであって、浮き本体に輪状の紐が固定されており、釣糸に取り付けられた棒状部材に前記紐が挿通することにより、前記浮き本体と前記釣糸が連結されていることを特徴とする。